

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出		第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	音楽101 音楽201 音楽301 音楽401 音楽501 音楽601
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	<p>○ 各学年の目標が達成できるよう、歌唱については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 遊びながら体を動かして歌ったり、歌詞の表す情景を想像して歌ったりする活動</p> <p>第3,4学年～ 手合わせをしながらリズムにのって歌ったり、旋律の特徴を生かした表現を工夫して歌ったりする活動</p> <p>第5,6学年～ 楽曲の特徴を捉えて歌ったり、自分たちの思いや意図を生かした表現を工夫して歌ったりする活動</p> <p>○ 各学年の目標が達成できるよう、器楽については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 手や打楽器を用いて歌詞に合わせてリズムを打ったり、音色に気を付けて簡単なリズムを打ったりする活動</p> <p>第3,4学年～ パートの役割や曲の特徴を捉えて演奏したり、音の重なりに気を付けて演奏したりする活動</p> <p>第5,6学年～ 自分たちの思いや意図を生かした演奏を工夫したり、楽器の音色を組み合わせて表現効果を工夫したりする活動</p> <p>○ 各学年の目標が達成できるよう、音楽づくりについては、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 言葉を基につくったりリズムをつなげて遊んだり、音の重なりやリズムを選んで演奏したりする活動</p> <p>第3,4学年～ いろいろな楽器の音の響きや組合せを楽しんだり、役割を基に音楽をつくって即興的に表現したりする活動</p> <p>第5,6学年～ 和音に含まれる音を使って旋律をつくったり、曲を特徴付けている音型を基に音楽をつくったりする活動</p> <p>○ 各学年の目標が達成できるよう、鑑賞については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 音楽に合わせて体を動かしながら聴いたり、曲や演奏の楽しさを見だしながら聴いたりする活動</p> <p>第3,4学年～ 曲想とその変化に気を付けながら聴いたり、曲や演奏のよさなどを見だしながら聴いたりする活動</p> <p>第5,6学年～ 曲や演奏のよさなどを見だしながら聴いたり、曲想とその変化と音楽の構造との関わりに気を付けて聴いたりする活動</p> <p>○ 〔共通事項〕については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 音の出し方を工夫していろいろな音を見つけたり、楽曲の曲調を感じ取って聴いたりする活動</p> <p>第3,4学年～ 拍の流れにのって歌や遊びを楽しんだり、曲の流れを感じ取って聴いたりする活動</p> <p>第5,6学年～ 楽曲の面白さを感じ取って聴いたり、旋律や響きの変化を捉えて演奏したりする活動</p>				

	<p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 「みんなで合わせて」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、使う楽器の音の出し方を工夫して合奏するなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p> <p>第3,4学年～ 「わたしたちの表現」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、楽器の音や声の響きを聴き合いながら演奏するなど、考え広げたり、深めたりする活動</p> <p>第5,6学年～ 「音楽に思いをこめて」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、楽曲に込められた思いを感じ取って歌うなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p>
<p>内容の構成・ 排列、 分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1,2学年～ 曲の特徴に合わせて体を動かす学習の後に、聴こえた音を書いたり、曲の楽しさについて友達と交流したりする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3,4学年～ 旋律の流れに合わせて体を動かす学習の後に、指揮の動きをしながら聴き取ったことを書いたり、曲のよさを交流したりする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第5,6学年～ 曲の特徴に着目して聴く学習の後に、楽器の関わりや曲の特徴に気を付けて聴いたり、曲のよさなどを交流したりする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～ 歌唱の教材数は36、器楽の教材数は7、音楽づくりの教材数は13、鑑賞の教材数は14であり、総ページ数は76ページで、前回より約6%増となっている。(判型はA B判)</p> <p>第2学年～ 歌唱の教材数は34、器楽の教材数は10、音楽づくりの教材数は9、鑑賞の教材数は18であり、総ページ数は76ページで、前回より約6%増となっている。(判型はA B判)</p> <p>第3学年～ 歌唱の教材数は29、器楽の教材数は19、音楽づくりの教材数は10、鑑賞の教材数は19であり、総ページ数は78ページで、前回より約5%増となっている。(判型はA 4変型判)</p> <p>第4学年～ 歌唱の教材数は28、器楽の教材数は10、音楽づくりの教材数は5、鑑賞の教材数は42であり、総ページ数は78ページで、前回と同様となっている。(判型はA 4変型判)</p> <p>第5学年～ 歌唱の教材数は26、器楽の教材数は12、音楽づくりの教材数は4、鑑賞の教材数は67であり、総ページ数は78ページで、前回と同様となっている。(判型はA 4変型判)</p> <p>第6学年～ 歌唱の教材数は28、器楽の教材数は10、音楽づくりの教材数は4、鑑賞の教材数は7であり、総ページ数は78ページで、前回と同様となっている。(判型はA 4変型判)</p>
<p>使用上の 配慮 等</p>	<p>○ 見開きごとの「学習のめあて」(全学年)や、教材曲や学習活動に即した児童への解説を示したり(全学年)、北海道民謡の「ソーラン節」を歌唱と鑑賞の教材として取り上げたり(第4,5学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「学びナビ」(全学年)や「学び合う音楽」コーナーを掲載したり(第3～6学年)、巻末資料に「『音楽のもと』まとめ」等の豊富な資料を掲載したり(全学年)するなど、主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。</p>

	<p>○ 折込ページを取り入れたり（全学年）、題材名や「音楽のもと」等にユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮</p>	<p>○ 地域素材については、生涯学習としての音楽との関わりとして、音楽大行進や吹奏楽のダンス&プレーなど、旭川市で行われている様々な音楽活動を素材として提示することができる教材を扱っている。また、音楽づくりや鑑賞の授業において、地域のゲストティーチャー（弦楽器、管楽器、和楽器、雅楽など）を招き、実際に楽器に触れたり音色を聴いたりする学習活動に活用することができる教材を扱っている。</p> <p>○ ICTの活用については、巻頭にQRコードを掲載するとともに、「まなびリンク」というウェブサイトを設け、楽器の奏法・遊び歌の遊び方などについて画像で説明したり、正しい奏法を確認させたりすることができるような工夫がなされている。また、演奏に合わせてスコアに色が付き、音の重なりや呼びかけとこたえなどが一目で分かる工夫がなされている。</p> <p>○ 小・中連携による指導については、各教材ページの上部に音楽を形づくっている要素を示すとともに、高学年では関連事項をメモできるようにしたり、巻末の『「音楽のもと」まとめ』では学年毎の積み上げができるよう音楽を形づくっている要素を掲載したりし、中学校へのスムーズな移行を促すために〔共通事項〕を意識して学習できるように配慮がなされている。また、全学年を通して、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、和楽器等の楽器の特徴や音色を扱うなどの配慮がなされている。さらに、全学年で発達段階に応じた英語の歌を取り入れている。</p>
<p>本市児童の学習の状況等</p>	<p>○ 音の重なりや、特徴的なフレーズを聴いて感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを生かして表現を工夫する力を育むことができるよう表現の特徴や工夫等の学び方のポイントをコラム「まなびナビ」の中で、分かりやすく示す工夫がなされている。また、中学年からは「学び合う音楽」のページを設け、歌い方の工夫などの観点を示しながら、表現を深める活動ができるよう配慮がされている。</p> <p>○ 音遊びや即興的に音を選んだりつないだりして表現する力を育むことができるよう全ての学年で「音のスケッチ」という教材を掲載し、音を重ねたり、選んだりするなどの活動がしやすくなるよう活動方法を図解する工夫がなされている。また、学習の手順が明確に示され、リズムや音階を限定するなど、順を追って取り組むことで、音楽をつくり上げることができるような工夫がなされている。高学年ではモチーフやテーマ、伴奏、楽譜による具体例の掲載など、作曲を意識した音楽づくりに向けた工夫がなされている。</p> <p>○ 想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、友達と伝え合い、友達の感じ方や考え方に共感する力を育むことができるよう、巻末の「音楽を表すいろいろな言葉」に曲想や音楽の構造を伝えるための言葉が掲載され、その言葉を用いて感じたことを伝えられるよう工夫がなされている。また、関連する写真や図説による資料を活用してワークシート欄にまとめた考えや気づきを、話し合う活動に生かすことができるよう工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		27・教芸		第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	音楽102 音楽202 音楽302 音楽402 音楽502 音楽602
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	<p>○ 各学年の目標が達成できるよう、歌唱については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 遊びながら体を動かして歌ったり、歌詞の表す情景を想像しながら歌ったりする活動</p> <p>第3,4学年～ 手遊びをしながら拍を感じて歌ったり、旋律の特徴を生かした表現を工夫して歌ったりする活動</p> <p>第5,6学年～ 歌声の重なり合う響きを感じ取って歌ったり、歌詞と旋律の特徴を生かした表現を工夫して歌ったりする活動</p> <p>○ 各学年の目標が達成できるよう、器楽については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 手や打楽器を用いて歌詞に合わせてリズムを打ったり、曲想を感じ取って工夫して演奏したりする活動</p> <p>第3,4学年～ 互いの楽器の音を聴き合って演奏したり、音の重なりに気を付けて演奏したりする活動</p> <p>第5,6学年～ 自分たちの思いや意図を生かして演奏を工夫したり、楽器の音色の特徴を生かして演奏したりする活動</p> <p>○ 各学年の目標が達成できるよう、音楽づくりについては、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ リズムに合う言葉でリズム遊びをしたり、身の回りの音を声で表して音楽をつくったりする活動</p> <p>第3,4学年～ リコーダーを用いてお囃子の旋律をつくったり、打楽器の音を組み合わせる音楽づくりをしたりする活動</p> <p>第5,6学年～ 音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくったり、和音に含まれる音を選んで旋律をつくったりする活動</p> <p>○ 各学年の目標が達成できるよう、鑑賞については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 音楽に合わせて体を動かしながら聴いたり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら聴いたりする活動</p> <p>第3,4学年～ 曲想とその変化と音楽の構造との関わりに気を付けて聴いたり、日本の民謡の特徴を感じ取りながら聴いたりする活動</p> <p>第5,6学年～ 楽器の響きに気を付けてオーケストラの演奏を聴いたり、日本の歌の言葉と旋律の美しさについて感受したことを書いたりする活動</p> <p>○ 〔共通事項〕については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 様子を思い浮かべて楽曲を聴いたり、歌詞の表す情景を想像しながら歌ったりする活動</p> <p>第3,4学年～ 曲の特徴を感じ取って聴いたり、拍の流れや旋律を感じて演奏したりする活動</p> <p>第5,6学年～ 曲想と歌詞の内容との関わりに気を付けて歌ったり、曲想の変化を味わいながら聴いたりする活動</p>				

	<p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～ 「ドレミであそぼう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、選んだ音でつくった短い旋律のつなげ方を工夫するなど、考えを広げたり、深めたりする活動。</p> <p>第3,4学年～ 「いろいろなリズムを感じ取ろう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、反復や変化を使ったりリズムで音楽をつくるなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第5,6学年～ 「いろいろな音色を感じ取ろう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、声の響きの重なりを生かして音楽をつくるなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p>
<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1,2学年～ リズムに合う言葉でリズム遊びをする学習の後に、太鼓の口唱歌を組み合わせるリズムをつくる学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3,4学年～ 三三七拍子のリズムを基にリズムをつくる学習の後に、反復や変化を使ってリズムアンサンブルをつくる学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第5,6学年～ 音楽の仕組みを生かしながら音楽をつくる学習の後に、声の響きの重なりを生かしてボイスアンサンブルをつくる学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～ 歌唱の教材数は37、器楽の教材数は15、音楽づくりの教材数は8、鑑賞の教材数は11であり、総ページ数は83ページで、前回より約11%増となっている。(判型はA4変型判)</p> <p>第2学年～ 歌唱の教材数は37、器楽の教材数は15、音楽づくりの教材数は8、鑑賞の教材数は17であり、総ページ数は83ページで、前回より約11%増となっている。(判型はA4変型判)</p> <p>第3学年～ 歌唱の教材数は23、器楽の教材数は27、音楽づくりの教材数は6、鑑賞の教材数は22であり、総ページ数は87ページで、前回より約16%増となっている。(判型はA4変型判)</p> <p>第4学年～ 歌唱の教材数は24、器楽の教材数は14、音楽づくりの教材数は6、鑑賞の教材数は66であり、総ページ数は87ページで、前回より約16%増となっている。(判型はA4変型判)</p> <p>第5学年～ 歌唱の教材数は20、器楽の教材数は9、音楽づくりの教材数は2、鑑賞の教材数は28であり、総ページ数は87ページで、前回より約16%増となっている。(判型はA4変型判)</p> <p>第6学年～ 歌唱の教材数は22、器楽の教材数は8、音楽づくりの教材数は2、鑑賞の教材数は19であり、総ページ数は87ページで、前回より約16%増となっている。(判型はA4変型判)</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 裏表紙に子どもが郷土芸能を受け継いで活躍している写真(全学年)や、該当ページに演奏家のメッセージを掲載したり(第3～5学年)、北海道民謡の「ソーラン節」を鑑賞教材として取り上げたり(第5学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 巻頭の「音楽の木」(全学年)や、巻末の「ふり返りのページ」を掲載したり(全学年)、各ページに学習のねらいや音楽を形づくっている要素を示したり(全学年)するなど、主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。</p> <p>○ 「歌いっごう日本の歌」のコーナーを掲載したり(全学年)、白を基調とするユニバーサルデザインフォントを採用したりするなど、使用上の便</p>

	<p>宜が図られている。</p>
<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、音楽づくりや鑑賞の授業において、地域のゲストティーチャー（弦楽器、管楽器、和楽器、雅楽など）を招き、実際に楽器に触れたり、音色を聴いたりして学習活動に活用することができる教材を扱っている。また、和楽器等の図が豊富であり、ゲストティーチャーと関連させて活用することが可能である。 ○ ICTの活用については、教科書にQRコードが掲載されており、関連する画像や外部リンク先などが示され、授業における参考資料として活用できるよう工夫がなされている。また、指導者・保護者向けにインターネットを活用する際の注意点等が掲載されている。 ○ 小・中連携による指導については、各教材ページの下部に、音楽を形づくっている要素を示すとともに、全ての学年の巻末に「ふり返りのページ」を設けており、「まとめ」や「振り返り」において、中学校へのスムーズな移行を促すために〔共通事項〕を意識して学習できるよう配慮がなされている。また、全学年を通して、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、和楽器等の楽器の特徴や音色を扱うなどの配慮がなされている。さらに、全学年で発達段階に応じた英語の歌を取り入れている。
<p>本市児童の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の重なりや、特徴的なフレーズを聴いて感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを生かして表現を工夫する力を育むことができるよう教材曲から感じたことや気づきを書き込む欄や、音の重なりを表に整理するワークシートなどの工夫がなされている。また、3種のキャラクターがあり、その吹き出しが表現の工夫のヒントとなるよう配慮がなされている。さらに、フレーズや音の重なりを絵図で表すなど、工夫の具体的な例が示され、児童が対話的な活動を通して、曲にふさわしい表現を考えることができるよう工夫がなされている。 ○ 音遊びや即興的に音を選んだりつないだりして表現する力を育むことができるよう、全ての学年で「音楽づくり」というタイトルを付けた教材を示し、楽器の音の形やリズムなどを絵図で表したり、短いモチーフをつくって選択したりつなげたりすることで、音遊びや即興的な演奏表現などの活動が容易にできるよう工夫がなされている。 ○ 想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、友達と伝え合い、友達の感じ方や考え方に共感する力を育むことができるよう、楽曲のイメージに合った写真を多く掲載するとともに、音色や曲想を図化するなど、楽曲の特徴を視覚的に捉えやすくなるよう工夫がなされている。また、自分の考えや気づきを書き込むワークシートが設けられており、対話的な活動が容易にできるよう配慮がなされている。話し合い活動を行う際の資料となるページ等が豊富に掲載されている。
<p>その他</p>	